

## 保健学習プリント（第2学年）

学習期間 5月11日～15日

次の問題を、学習支援計画に示している Google フォームに回答してください。

2 学年保健 出題範囲：教科書 P. 64 『1. 思春期と健康』～P. 71 『4. 妊娠・出産と健康』

A 次の文章が正しい場合は（ ）に○を、間違っている場合には×を入れなさい。

- ① 性周期は、性腺刺激ホルモンと卵巣から分泌される女性ホルモン（卵胞ホルモン・黄体ホルモン）によって調節されており、月経によって確かめることができる。  
（ ）
- ② 性周期は基礎体温の変化によって知ることができる。  
（ ）
- ③ 月経初日から約2週間後に排卵が起こり、排卵後は黄体ホルモンの影響で基礎体温が下がる。  
（ ）
- ④ 基礎体温は、婦人体温計（基礎体温計）を使って、朝目覚めた時に、寝たままの状態、舌の下で測ります。  
（ ）
- ⑤ 思春期には、親やまわりの人々に依存した状態から抜け出して、自立しようとする心が強くなります。  
（ ）
- ⑥ 異性の体や心を的確に理解するとともに異性を尊重する態度を身につけることは、思春期に直面する大きな課題の1つである。  
（ ）
- ⑦ 配偶者による暴力を配偶者暴力（DV・ドメスティックバイオレンス）といい、結婚前の交際相手から受ける暴力を交際相手暴力（デートDV）という。  
（ ）
- ⑧ 上記の暴力は、殴る、蹴るだけでなく、人前でバカにしたり、携帯電話やメールを細かくチェックして、行動を監視したりする精神的暴力や、性行為の強要などの性的暴力も含まれる。  
（ ）
- ⑨ 初めて結婚する年齢（初婚年齢）は、年々低くなっている。  
（ ）
- ⑩ 両親が喫煙者である子ども（高校生）の喫煙率は、低い傾向がある。  
（ ）

B 次の文章の（ ）内に語句を入れて文章を完成させなさい。

- ⑪ 高校生の時期は思春期の後半にあたり、男女ともに（ ）はほぼ大人に近づきます。
- ⑫ 男性は、精巣が発達し、射精が起こるようになります。射精とは、性的興奮などによって（ ）を外へ放出することで、性的快感がともないます。
- ⑬ 相手の気持ちを考えずに交際を迫ったり、つきまとったりする行為を（ ）と呼び、法律で規制・処罰が適用される。
- ⑭ 妊娠が確認できるころには、すでに胎児の脳や（ ）など各器官の形成は始まっている。
- ⑮ 卵管の中で受精した卵子（受精卵）は、細胞分裂を繰り返しながら子宮へ運ばれ、およそ1週間で子宮内膜に付着して、胎盤をつくり始めます（ ）
- ⑯ 母体は、胎盤と（ ）を通じて胎児の生存・成長に必要な酸素や栄養を送り、二酸化炭素や老廃物を受け取ります。
- ⑰ 新生児は、誕生して自力で呼吸を始めると、へその緒が切れ、役割を終えた胎盤は出産後数十分で子宮内膜からはがれ落ち、体外へ出ます。（ ）
- ⑱ 母体の健康を守るために、妊娠の早い時期からかかりつけ医などによる（ ）を受けるなど、母体と胎児の健康状態を把握することが大切です。
- ⑲ 医師によって妊娠が確認されたら、妊娠届を役所に提出して（ ）を受け取ります。
- ⑳ 【出産予定日の決め方】 最終月経の第1日目を起点（0日）として、（ ）日目を出産予定日とします。

## 2年生保健 TOPIC READING

次の文を読み自分の考えを述べなさい。

令和2年5月1日(金)の朝日新聞記事 感染症対策専門家

英王立国際問題研究所特別荣誉研究員 D.ヘイマン氏

### 欧州 感染経路追えず拡大

アジア諸国の多くは、これまで被害をかなり食い止めているように見えます。苦戦しているのはむしろ欧米諸国です。

「アジアの国々の多くは2002～2003年に SARS の大規模な感染拡大を経験しました。ベッド数を増やし、人工呼吸器を備えるなど対策を進めた結果、今回は効果的な治療ができたのです」

「香港や韓国などは感染者の行動を丹念に追跡し、接触者を特定することの重要性をよく理解しています。小規模の感染拡大が起きたら諦めずに封じ込めようとし、市中への広がりが最小限に抑えられました」

—欧州は違ったと。

「アジア以外の多くの国は感染者の行動を把握できず、追跡を途中でやめてしまいました。病院で患者を選別したり、中国と同様に都市封鎖に踏み切ることによって病院に行く人の数を絞ったり、といった対応に集中することになったのです。アジア各国で行動制限が少ない一方、欧米では相次いだのも、これが理由でした」

—欧州では北イタリアでの被害が衝撃的でした。

「国による死者数の違いは病院の受け入れ能力と社会の年齢構成から説明できます。イタリアの特徴は人口に高齢者が占める割合の高さで、65歳以上は20～25%に達します。多くは高血圧や糖尿病、慢性疾患などを抱え、合併症を引き起こしやすい。若者と高齢者が一緒に暮らす生活スタイルも、被害が広がるきっかけになりました。感染した高齢者を受け入れる病床も十分確保できていませんでした」

「当局は当初、被害を地域で封じ込めようと試み、人々の外部への旅行も禁止しました。ただ、その間にも、多くの人の集まるスポーツイベントが開かれました。そこに来た若者達が感染し、そのまま、家に帰る。その家にはお年寄りが暮らしている……」

—ただ欧州も同様ではなく、被害がそれほど広がらなかった国もあります。

「ドイツでは対応も異なっていました。高齢者への感染の危険性を認識していた独当局は厳しく感染者の行動を追ひ、隔離政策を進めました」

—欧州の多くの国は今や国境を閉じました。

「感染拡大を防ぐ上で国境はあまり役に立たないでしょう。大部分の疫学者はむしろ国内でしっかり監視することが重要だと考えています」

—一方、英国のように空港を開いている国もあって対応は様々です。

「英国の対応も、国内で感染者を発見し隔離する方が重要だと考えてのことです。行動追跡のアプリ導入も試みっていますが、感染の可能性を人々に知らせるうえで有効です。英国は自らリスクを分析し、最も正しいと思った対策を決めているといえます」

—独自の方針を続けるのがスウェーデンならではの発想です。制作を透明化し、市民を信頼し、人々に知識を持ってもらうことで行動制限を最小限にとどめる。市民も、人と人との間隔や手洗いの重要性を理解している。しっかりとした専門家が政府に協力しています」